

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970400267		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム ふなのの里		
所在地	高知県南国市下島丙179番地1		
自己評価作成日	平成27年5月1日	評価結果 市町村受理日	平成27年7月27日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は空港に近く、海岸沿いの小集落にあり、爽やかな風が吹き、日当たりが良い環境の中で、野菜や花の生育を楽しみにしながら、健やかに暮らしを営んでいただけます。

過疎が進みつつある地域の中で一斉清掃への参加、資材や農作物などの差し入れなど、顔と顔でつながる双方向の交流を行っており、大湊保育園と連携をしながら運動会の見学招待や中庭の畑でのさつまいもの苗植え・収穫を行うなど、世代間交流への取り組みも行っております。

利用料金については、低所得の方でも入居可能な金額となっており、入居者様やご家族の希望に応じて、同法人が運営している介護保健施設がご利用いただけるようバックアップ状態に応じて継続的なケアが行えるような体制づくりを行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JizyosyoCd=3970400267-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&amp;JizyosyoCd=3970400267-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成27年6月19日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、静かでのどかな海岸沿いの小集落にあり、平屋建ての2棟が建つ中庭の畑では、近くの保育園児と一緒に薩摩イモの植え付けや収穫をしたり、花壇では家族等と植えた草花の世話を楽しくしている。早期から自治会に加入し、一斉清掃や敬老会、防災訓練等の地域行事に積極的に参加し、事業所行事には地域住民が参加する等、双方向的に交流している。

開設して11年目であるが、協力医療機関等から定期的な往診や訪問看護が行われ、言語聴覚士、音楽療法士等の専門スタッフの派遣もあるなど、医療と介護の連携体制が整っている。管理者は交代して間もないが、職員とのコミュニケーションを密に図っており、職場環境は良好である。今年初めに理念の見直しを行い、「地域との交流を大切にし、住み慣れた所で暮らせる安心感を提供する」という基本理念を作成し、「一人ひとりが、日々、実践」という介護理念を掲げ、職員が一丸となり熱心に取り組んでいる。

理念に沿った介護により、利用者は落ち着いた表情で日々過ごし、事業所は、地域の核となって情報発信していこうとする姿勢を持っている。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名：はまひるがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を行動指針とできるような取り組みが行えるよう、職員会や日々の申し送りの中で話し合うようにしている。管理者からの発信だけでなく職員からのボトムアップも行っている。	管理者は、理念について職員と話し合い、今年1月に「地域との交流と住み慣れた場所での安心した暮らしの提供」という簡潔で分かりやすい理念を作成している。理念は職員会や毎日の申し送りで振り返り、職員が理念を意識して日々の実践に取り組めるよう努めている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動や運営推進会議等での意見交換を通じて、顔と顔でつながる地域交流ができています。地域の防災計画への参加や公民館での地域の敬老会の招待もあり、事業所が地域の中の一員としての役割が担えるよう、双方向の関わりが行えている。	地域の一員として自治会に加入し、総会や清掃活動、敬老会等の地域の行事に積極的に参加し、近隣からの野菜の差し入れや、利用者と保育園児と一緒に敷地内の畑で芋づくりをする等、地域と日常的に付き合いながら、交流の基盤づくりに努めている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居しやすい料金設定であるとともに、入居希望者のご家族の方からの相談も受けている。その際には関係機関(居宅支援事業所、病院の地域連携室、地域包括支援センター)との連携に努め、地域のネットワークの中に参加できるよう取り組んでいる。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域で行われている、バザーに出す作品を利用者様が負担にならない範囲で、制作している。実際に地域の方に活用してもらう事が励みになり、意欲的に取り組んでいる。	会議では地域の行事等についても意見を交換し、防災訓練参加や利用者の手作り作品をバザーに出展する等の社会参加に繋げている。ただし、会議には地域代表の参加がやや少ない。また、議事録は丁寧に記録しているが、家族には送付していない。	地域との関係をさらに強めるため、地域代表者を複数にする等、地域からの参加が得られやすい工夫を期待したい。また、家族へ議事録を送付する等、運営への理解と協力が一層深まるような取り組みを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を主としながらも、わからないことがあればすぐに電話で聞くなど確認を行い、サービスの向上につなげている。	市担当者とは、運営推進会議以外に、日常的に気軽に相談し合える関係を築いている。対応困難事例等は市に随時相談や確認を行い、市担当者からも入居等に関する相談があるほか、市主催の研修にも積極的に参加している。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組み、マニュアルをもとに尊厳の理解を進め、ベット柵は頭元に設置し自由に寝起き可能な環境である。転倒のリスクを考え、コールマットを導入し見守りや介助で予防に努めている。玄関は日中は解錠し、チャイムが鳴ると同時に目で確認し、見守り付き添いをして自由に出入りができている。	管理者は、母体法人が実施する研修等に職員を参加させ、拘束をしないケアの実践に努めている。転倒リスクの高い利用者には、家族の同意のもとにコールマットを設置して、事故の予防を図り、玄関は施錠せずチャイムにより迅速に対応している。外出傾向のある利用者には付き添い、思いを傾聴する等自由な行動を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組んでおり、認知症高齢者への理解と職員の自己覚知を進めている。虐待の入り口を防止するため挨拶、言葉使い、ケアをさせて頂いているという気持ちを忘れず、利用者様に接するように努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組んでおり、勉強会を受けた職員が伝達者になって職員会で周知をしている。入居の折に保証人様に説明をしている。現在、利用はないが必要に応じて援助できる体制を確保している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時や契約時に文書を見ながら時間をかけて、質問・疑問等は解決できるように説明し、同意を得ている。また、随時電話等でも相談を受け付けている。また、改定時にも同様に同意を得ている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年4回設け、苦情は事業所改善の機会ととらえて、積極的に改善するように取り組んでいる。また、家族会で出た問題は運営推進会議でも取り上げて話し合いをしている。	家族会は行事に併せて年4回開催しており、今年は2～5家族が参加している。家族会では認知症や衣替え等具体的な生活について話し合いが行われ、会議記録も作成している。必要な内容は運営推進会議に報告し話し合っている。	家族会に参加出来ない家族のために、家族会議事録を事業所便りに併せて送付する等、家族会活動の周知の工夫とともに、家族会等で家族同士が自由に話し合う時間を設定する等の工夫を期待したい。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や、職員会、毎日のミーティングなどで意見を聞き、行事や業務改善に反映できるように取り組んでいる。	管理者は就任して間もないが、こまめに個別面談や職員会、日々のミーティング等で意見を聞く等、職員とのコミュニケーションを積極的に図って運営に取り組んでいる。職員の提案で、食料管理係ができる等の業務改善に繋がっている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた法人の勉強会に参加している。 年2回の人事考課を行い向上心が持てるよう働きかけている。個別面談を行いストレスを一人で抱え込まない様、法人の相談窓口へ繋いでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組み、実務者研修や介護福祉士受験対策講座も開き、資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内でのグループホームは毎月勉強会を行っている。また同市内の事業所から案内を受けて集まりへ参加し、ネットワークづくりをしている。その中で訓練について意見交換ができ、日常生活動作を丁寧に言葉がけをして行う取り組みに繋がった。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限りご本人様に見学に来ていただき、不安や疑問を軽減できるよう努めている。また待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして信頼関係を構築できるよう配慮している。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居や申し込みに際して介護保険サービスについてわからないことや、介護上での困りごとなどのヒヤリングを行い、気軽に相談ができるよう信頼関係が構築できるよう配慮している。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性のある場合は法人内外の関連機関と連絡調整を行い、サービスを利用していただけるように対応している。また市にも相談に応じてもらうように働きかけている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先達である入居者様には日常生活の中で、生活の知恵や家事についてなど教えてもらう場面も多くあり、また介護が必要となっても感謝のやりとりを大切に、職員と共におかげさま・おたがいさまの共同生活を構築するよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様にも可能な限り、入居者様の生活に関わっていただけるように支援している。また、ご家族様ができることを申し出ていただくことも多く、事業所とご家族様が協力関係のもと、入居者様の人生を支えるよう取り組んでいる。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族様だけではなく、友人や知人の面会や交流も多く見られている。また、ご家族様と共に馴染みの美容室や食堂に行かれる入居者様もおられるため、好きなことや馴染みの場所の聞き取り等に努めている。</p>	<p>馴染みの関係は、入居時や家族等の面会時に把握し、生活歴の記録に追記して職員で共有している。利用者の3分の1は、週に2～3回の頻度で家族や友人等が面会に訪れ、面会時には家族と散歩や、馴染みの美容院や食堂に出かける利用者もあり、関係継続を支援している。</p>	
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士でお互いに関わりを持ち、協力し合って生活できるように重度者と軽度者を分けて、一緒に過ごす環境や場面づくりを行っている。最近では入居者同士で歩行時等に声援を送る場面もみられている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取り組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後であってもご家族様から次の施設への入居や、現在の生活についての相談を受けるなど、退居後も継続して関係を保っている。また亡くなられた時には葬儀にも参列している。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者様に寄り添い、その人の思いや意欲に関心を寄せて接することで、日々の言葉や表情の変化などから、したいことや意向を把握したり、くみ取るよう努めている。</p>	<p>日々のケアの中で、利用者の言葉や表情を通して思いの把握に努め、本人とのコミュニケーションが困難な場合は家族等から聞き取り、把握している。把握したことは、記録に追記して職員間で共有している。</p>	
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご本人様やご家族様、関係者からこれまでの生活歴やサービスの利用状況などの情報を聞きとり、共有するように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様のできること、わかる力などの現状を把握し、意欲的に過ごしていただけるよう働きかけ、またその日の状態に応じて柔軟に対応している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の関わりの中で思いや意見を聞きとり、全職員でカンファレンスを行い介護計画に反映させている。	本人や家族の意向や思いを、日々のケアの中で把握し、職員全員でカンファレンスを行い、介護計画に反映させている。サービス担当者会議の前には、家族から来所時や電話で意向等を聞き取り、それを踏まえて、介護計画を作成している。また、利用者の状況に応じて見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った実践状況や職員の気づきなどを個人記録に記載し、職員間で共有することで日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しに反映させている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の健康管理から不調や気になる事があれば、日常的に医療連携の訪問看護に相談して、助言や指導、早期に対応が必要な場合等状況に応じて協力を得ている。通院、受診の送迎をしている。梅の収穫をしてドリンク作り、玉葱を収穫してカレーを作ったりと暮らしを楽しめるように取り組んでいる。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育所や町内会と連携したり、消防署や地域の自主防災会、地域の代表者との関係を築き、入居様が安心して暮らしを楽しめることができるよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や他の医療機関等と連携を密にし、随時受診対応も行っている。	入居時に、協力医をかかりつけ医に選択する利用者が大半であり、往診と訪問看護をそれぞれ月2回受けている。専門医の受診が必要な場合は、かかりつけ医から紹介を受け、職員が受診に同行している。受診結果は医療連携記録により、職員間で情報を共有し、家族には電話や訪問で伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人内の訪問看護ステーションと連携し、小さいことも気軽に相談したり、24時間体制で看護が受けられる体制となっており、適切な受診支援をしている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における医療処置の対応など、入居時や状態変化のある度に話をしている。また、研修にも参加し、受け入れできる体制を整えている。	看取り指針を作成し、管理者は入居時や必要時に家族に説明している。職員は、毎年母体法人主催の看取り研修に参加し、参加者は所内で伝達して情報共有するなど、看取りのための連携体制を築いている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを整備し、職員に周知徹底するとともに、消防署の協力で普通救命講習を全員が受講し、対応方法を身につけている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の協力を得て、防火訓練や地震想定訓練を実施しており、全職員を対象とした夜間呼集訓練や消火機器の使用訓練などを行っている。	防災訓練は、消防署や運営推進会議のメンバー等地域住民数名の参加を得て、避難タワーへの避難訓練等を実施し、地域との協力体制を築きつつある。また、夜間想定職員の呼集訓練を実施している。非常用食糧等は3日分以上備蓄しているが、表示が無くわかりにくい。	夜間想定避難訓練について、運営推進会議や自治会等で実施に向けての検討を期待したい。また、非常用食糧等の備蓄品が誰にでも分かるように表示することを望む。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケアが必要な時は、まず本人にお手伝いさせて頂けますか、と言葉がけを行い意思の確認をして、自然な介助で対応をしている。	羞恥心を伴う排泄や入浴介助時には、人格を損ねないように配慮した声かけをしている。また、職員の対応で気になる場合は、管理者が個別にアドバイスしたり、職員会等でお互いに気づいた点を出し合うことで、対応の改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提示したり、簡単に意思表示できるように工夫するなど、自己決定してもらうことを大切にしている。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、入居者様の生活のペースを大切に、畑仕事や散歩など希望に沿ってやりたいことを行っていただけるよう支援している。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りの際は鏡の前に座って頂き、お話をしながら床屋の雰囲気を出し喜ばれている。本人が衣類を選び、ボタン留めを介助し気分良く過ごせるよう援助できた。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族様から頂いた文旦を房から出し、ゼリーやジュースにして利用者様と一緒に楽しみながらおやつを作ったり、畑で玉葱、豆、葱の収穫や皮むきをして新鮮な旬野菜を職員も一緒に頂いている。負担にならない範囲で食器洗い、台拭きをしている。	家族や近所から提供された野菜等も使用して、季節感のある食事づくりをしている。利用者は、野菜の皮むきや台拭き、片付け等出来ることに参加し、おやつ作りにも数人が参加している。利用者の好みや食べやすい形態等に配慮し、利用者と職員で穏やかに食事を楽しんでいる。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が立てているが、食べにくかった食材やメニューなどは相談して、食べやすい献立になるように努めている。また、普段の摂取の様子から摂取量・水分量、嗜好を把握し、一人ひとりに応じた食形態を提供している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアが誤嚥性肺炎予防になる事を理解して、食後は義歯の利用者はスポンジを使用。歯の間、歯茎との境目の介助をして本人の状態に応じたケアをしている。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表へ記入して、排泄時間が空いている利用者には言葉がけを行い誘導をしている。排泄パターンを把握して前誘導を行い、在宅の時より失禁が減っている利用者もいる。日中、17名はトイレで排泄ができています。出来る動作の継続を援助している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンに合わせて声かけしており、日中はほとんどの利用者がトイレで排泄ができています。排泄機能を維持する支援の方針を全職員で共有してケアに当たっており、ほぼ自立している利用者も3名います。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や、家事などを通じて体を動かす機会を設けたり、食事や水分摂取量にも留意しながら、自然な排泄ができるように支援している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の好きな時間に入浴できるように朝から浴室を開放し、好きな時間に入浴できるように支援している。	午前・午後に分けて入浴時間を決めているが、必要時のシャワー浴等、臨機応変に対応している。利用者全員が週に2～3回は入浴できている。入浴拒否の場合は、音楽をかけたり、時間調整等の工夫をしている。また、好みの入浴剤で入浴を楽しむ利用者もあり、個々に合わせた支援に努めている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れないときにはご本人様のペースで過ごしていただき、職員とも一対一でゆっくり関わりを持ち、安心していただけるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解し、適切な服薬支援ができるようにしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物は、干す、畳む作業を本人の力に応じてお願いをして、一つの作業でも役割分担をしながらお互いに満足感を持っている。例えば大工をされていた方には、散歩で日本建築の家を見る等、気分転換ができるよう援助している。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブのほか、季節の花を見たり地域の行事に参加するなど、個々のニーズに沿った外出支援を行っている。また、ご家族様の協力も得て外出もしている。	2～3人のグループで、10～30分程度のコースを選び、週1回以上は散歩に出かけている。面会に訪れた家族と毎日散歩する利用者もいる。年4回は花見や地域行事に参加するほか、個々の利用者の希望で買い物や家族の行事に出かける等の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを持たれている方もおり、買い物時は本人が支払う場面づくりをするなどして支援している。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の書ける方は毎月のお便りに書き添えてもらったり、電話で話ができる方には家族との電話を取り次ぐなどの支援をしている。また携帯電話を持たれている入居者さまもおられる。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様、家族様に家具等の配置について意見を聴くなど、自分の居場所という安心感を持てるよう援助している。庭の花や小道の野草を飾り、共用空間からも見えるよう、花壇、プランターへ馴染みのある向日葵や朝顔、コスモスを種から育てている。昼間は太陽の自然な光で不快なく過ごしている。	玄関や廊下、食堂兼ロビーには、紫陽花等の季節を感じられる花を活けている。壁には利用者の作成したぬり絵や手芸品等を適度に飾り、家庭的で和やかな雰囲気をつくっている。窓からは庭の畑や花壇が見え、明るく、日中は、ほとんどの利用者が、ロビーで居心地よく過ごしている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や庭に椅子を置くなど、仲のよい入居者様同士で過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力を得ながら家具や馴染みのもの、写真等を持ってきてもらい、本人の好みに応じて居室に飾りつけるなど、居心地よく過ごせるように支援している。	居室には、お気に入りの衣装等を掛けたり、家族写真や似顔絵等、利用者が思い思いに飾り付けをしている。家族の希望で机と椅子を持ち込んで好きな書き物をしたり、室内で携帯電話で毎日家族と話すことを楽しみにするなど、個々に応じた過ごし方を支援している。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分かるように表札を出したりするなど、入居者様が安全で自立した生活が送れるよう環境を整えている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名: たちばな

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を行動指針とできるような取り組みが行えるよう、職員会や日々の申し送りの中で話し合うようにしている。管理者からの発信だけでなく、職員からのボトムアップも行っている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	清掃活動や運営推進会議等での意見交換を通じて、顔と顔でつながる地域交流ができています。地域の防災計画への参加や公民館での地域の敬老会の招待もあり、事業所が地域の中の一員としての役割が担えるよう双方向の関わりが行えている。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居しやすい料金設定であるとともに、入居希望者のご家族の方からの相談も受けている。その際には関係機関(居宅支援事業所、病院の地域連携室、地域包括支援センター)との連携に努め、地域のネットワークの中に参加できるよう取り組んでいる。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域で行われている、バザーに出す作品を利用者様が負担にならない範囲で制作している。実際に地域の方に活用してもらう事が励みになり、意欲的に取り組んでいる。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を主としながらも、わからないことがあればすぐに電話で聞くなど確認を行い、サービスの向上につなげている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組み、マニュアルを基に尊厳の理解を進めベット柵は頭元に設置し、自由に寝起き可能な環境である。転倒のリスクを考え、コールマットを導入し見守りや介助で予防に努めている。玄関は日中は解錠し、チャイムが鳴ると同時に目で確認し、見守り付き添いをして自由に出入りできている		

7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人全体で取り組んでおり、認知症高齢者への理解と職員の自己覚知を進めている。虐待の入り口を防止するため挨拶、言葉使い、ケアをさせて頂いているという気持ちを忘れず、利用者様に接するよう努めている。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人全体で取り組んでおり、勉強会を受けた職員が伝達者になって職員会で周知をしている。入居の折に保証人様に説明をしている。現在、利用はないが必要に応じて援助できる体制を確保している。</p>		
9		<p><b>○契約に関する説明と納得</b></p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>申し込み時や契約時に文書を見ながら時間をかけて、質問・疑問等は解決できるように説明し同意を得ている。また、随時電話等でも相談受け付けている。また、改定時にも同様に同意を得ている。</p>		
10	(6)	<p><b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b></p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を年4回設け、苦情は事業所改善の機会ととらえて、積極的に改善するように取り組んでいる。また、家族会で出た問題は運営推進会議でも取り上げて、話し合いをしている。</p>		
11	(7)	<p><b>○運営に関する職員意見の反映</b></p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個別面談や職員会、毎日のミーティングなどで意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。</p>		
12		<p><b>○就業環境の整備</b></p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けた法人の勉強会に参加している。 年2回の人事考課を行い向上心が持てるよう働きかけている。個別面談を行いストレスを一人で抱え込まない様、法人の相談窓口へ繋いでいる。</p>		

13	<p><b>○職員を育てる取り組み</b></p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組み、実務者研修や介護福祉士受験対策講座も開き、資格取得や職員育成に向けて取り組んでいる。</p>		
14	<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b></p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同法人内でのグループホームは毎月勉強会を行っている。また、同市内の事業所から案内を受けて集まりへ参加し、ネットワークづくりをしている。その中で訓練について意見交換ができ、日常生活動作を丁寧に言葉がけをして行う取り組みに繋がった。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>可能な限りご本人様に見学に来ていただき、不安や疑問を軽減できるよう努めている。また、待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして信頼関係を構築できるよう配慮している。</p>		
16	<p><b>○初期に築く家族等との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居や申し込みに際して、介護保険サービスについてわからないことや介護上での困りごとなどのヒヤリングを行い、気軽に相談ができるよう、信頼関係が構築できるよう配慮している。</p>		
17	<p><b>○初期対応の見極めと支援</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>緊急性のある場合は法人内外の関連機関と連絡調整を行い、サービスを利用していただけるように対応している。また、市にも相談に応じてもらうように働きかけている。</p>		
18	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b></p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>人生の先達である入居者様には日常生活の中で生活の知恵や家事についてなどを教えてもらう場面も多くあり、また、介護が必要となっても感謝のやりとりを大切にし、職員と共におかげさま・おたがいさまの共同生活を構築するよう取り組んでいる。</p>		

19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族様にも可能な限り、入居者様の生活に関わっていただけるように支援している。また、ご家族様ができることを申し出ていただくことも多く、事業所とご家族様が協力関係のもと、入居者様の人生を支えるよう取り組んでいる。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族様だけではなく、友人や知人の面会や交流も多く見られている。また、ご家族様と共に馴染みの美容室や食堂に行かれる入居者様もおられるため、好きなことや馴染みの場所の聞き取り等に努めている。</p>		
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者同士でお互いに関わりを持ち、協力し合って生活できるように重度者と軽度者を分けず、一緒に過ごす環境や場面づくりを行っている。最近では入居者同士で歩行時等に声援を送る場面もみられている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退居後であってもご家族様から次の施設への入居や、現在の生活についての相談を受けるなど、退居後も継続して関係を保っている。また、亡くなられた時には葬儀にも参列している。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者様に寄り添い、その人の思いや意欲に関心を寄せて接することで、日々の言葉や表情の変化などから、したいことや意向を把握したり、くみ取るよう努めている。</p>		
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご本人様やご家族様、関係者からこれまでの生活歴やサービスの利用状況などの情報を聞きとり、共有するよう努めている。</p>		

25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様のできること、わかる力などの現状を把握し、意欲的に過ごしていただけるよう働きかけ、またその日の状態に応じて柔軟に対応している。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の関わりの中で思いや意見を聞きとり、全職員でカンファレンスを行い、介護計画に反映させている。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った実践状況や職員の気づきなどを個人記録に記載し、職員間で共有することで日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しに反映させている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の健康管理から不調や気になる事があれば、日常的に医療連携の訪問看護に相談して、助言や指導、早期に対応が必要な場合等、状況に応じて協力を得ている。通院、受診の送迎をしている。梅の収穫をしてドリンク作り、玉葱を収穫してカレーを作ったりと暮らしを楽しめるように取り組んでいる。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育所や町内会と連携したり、消防署や地域の自主防災会、地域の代表者との関係を築き、入居者様が安心して暮らしを楽しめることができるよう支援している。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や他の医療機関等と連携を密にし、随時受診対応も行っている。		

31		<p><b>○看護職との協働</b></p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同法人内の訪問看護ステーションと連携し、小さいことも気軽に相談したり、24時間体制で看護が受けられる体制となっており、適切な受診支援をしている。</p>		
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b></p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された際は職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら速やかな退院支援に結びつけている。</p>		
33	(12)	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期における医療処置の対応など、入居時や状態変化のある度に話をしている。また、研修にも参加し、受け入れできる体制を整えている。</p>		
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時の対応マニュアルを整備し、職員に周知徹底するとともに、消防署の協力で普通救命講習を全員が受講し、対応方法を身につけている。</p>		
35	(13)	<p><b>○災害対策</b></p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の消防署の協力を得て、防火訓練や地震想定訓練を実施しており、全職員を対象とした夜間呼集訓練や消火機器の使用訓練などを行っている。</p>		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<p><b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b></p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>ケアが必要な時は、まず本人にお手伝いさせて頂けますか、と言葉がけを行い意思の確認をして、自然な介助で対応をしている。</p>		

37		<p><b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>複数の選択肢を提示したり、簡単に意思表示できるように工夫するなど、自己決定をしてもらうことを大切にしている。</p>		
38		<p><b>○日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>大まかな日課はあるが、入居者様の生活のペースを大切に、畑仕事や散歩など希望に沿ってやりたいことを行っていただけるよう支援している。</p>		
39		<p><b>○身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>髭剃りの際は鏡の前に座って頂き、お話をしながら床屋の雰囲気を出し喜ばれている。本人が衣類を選び、ボタン留めを介助し気分良く過ごせるよう援助できている。</p>		
40	(15)	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>家族様から頂いた文旦を房から出し、ゼリーやジュースにして利用者様と一緒に楽しみながらおやつを作ったり、畑で玉葱、豆、葱の収穫や皮むきをして新鮮な旬野菜を職員も一緒に頂いている。負担にならない範囲で食器洗い、台拭きをしている。</p>		
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b></p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は管理栄養士が立てているが、食べにくかった食材やメニューなどは相談して、食べやすい献立になるように努めている。また、普段の摂取の様子から摂取量・水分量、嗜好を把握するようにしている。一人ひとりに応じた食形態を提供している。</p>		
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b></p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>職員は口腔ケアが誤嚥性肺炎予防になる事を理解して、食後は義歯の利用者はスポンジを使用している。歯の間、歯茎との境目の介助をして本人の状態に応じたケアをしている。</p>		
43	(16)	<p><b>○排泄の自立支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表へ記入して、排泄時間が空いている利用者には言葉がけを行い誘導をしている。排泄パターンを把握して前誘導を行い、在宅の時より失禁が減っている利用者もいる。日中、17名はトイレで排泄ができています。出来る動作の継続を援助している。</p>		

44		<p><b>○便秘の予防と対応</b></p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>体操や家事などを通じて体を動かす機会を設けたり、食事や水分摂取量にも留意しながら、自然な排泄ができるように支援している。</p>		
45	(17)	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b></p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入居者の好きな時間に入浴ができるように朝から浴室を開放し、好きな時間に入浴できるように支援している。</p>		
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b></p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中は日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れないときにはご本人様のペースで過ごしていただき、職員とも一対一でゆっくり関わりを持ち、安心していただけるよう支援している。</p>		
47		<p><b>○服薬支援</b></p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解し、適切な服薬支援ができるようにしている。</p>		
48		<p><b>○役割、楽しみごとの支援</b></p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>洗濯物は、干す、畳む作業を本人の力に応じてお願いをして、一つの作業でも役割分担をしながらお互いに満足感を持っている。例えば大工をされていた方には、散歩で日本建築の家を見る等、気分転換ができるよう援助している。</p>		
49	(18)	<p><b>○日常的な外出支援</b></p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>散歩やドライブのほか、季節の花を見たり地域の行事に参加するなど、個々のニーズに沿った外出支援を行っている。また、ご家族様の協力も得て外出もしている。</p>		

50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b></p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>小遣いを持たれている方もおり、買い物時は本人が支払う場面づくりをするなどして支援している。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b></p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙の書ける方は毎月のお便りに書き添えてもらったり、電話で話ができる方には家族との電話を取り次ぐなどの支援をしている。また、携帯電話を持たれている入居者さまもおられる。</p>		
52	(19)	<p><b>○居心地のよい共用空間づくり</b></p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者様、家族様に家具等の配置について意見を聴くなど、自分の居場所という安心感を持てるよう援助している。庭の花や小道の野草を飾り、共用空間からも見えるよう、花壇、プランターへ馴染みのある向日葵や朝顔、コスモスを種から育てている。昼間は太陽の自然な光で不快なく過ごしている。</p>		
53		<p><b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b></p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下や庭に椅子を置くなど、仲のよい入居者様同士で過ごせるスペースを確保している。</p>		
54	(20)	<p><b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b></p> <p>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族様の協力を得ながら家具や馴染みのもの、写真等を持ってきてもらい、本人の好みに応じて居室に飾りつけるなど、居心地よく過ごせるように支援している。</p>		
55		<p><b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b></p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室が分かるように表札を出したりするなど、入居者様が安全で自立した生活が送れるよう環境を整えている。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				